

お手紙拝見いたしました。お返事が遅くなり、申し訳ありませんでした。

はじめに、川崎市バス事業は、平成21年度までの経営健全化計画「川崎市バス事業 ニュー・ステージプラン」により、計画期間後の安定的かつ自立した経営を目指して、鋭意、経営改善とお客サービス向上に取り組んでいます。

しかし、昨今の原油価格の高騰などプラン策定時に想定し得なかった環境変化により、市バス事業の経営状況の悪化が見込まれることから、本年3月に学識経験者や利用者代表、事業者代表による「第2次川崎市バス事業経営問題検討会」を設置しました。

現在、検討会で、さまざまな視点から市バス事業の方向性や新たな経営改善策などについて御審議いただいております。8月26日開催の第7回川崎市バス事業経営問題検討会で答申をいただく予定です。

貴会からいただいた「市バスの経営戦略と川崎市の交通政策に関する提案書」について、次のとおり回答いたします。

1 市バスにおける環境対策の推進については、市バスエコ戦略の一環として、低公害バスの積極的導入やエコドライブ・アイドリングストップの徹底などに取り組むとともに、関係部局と調整し、路線バスの利用促進策について検討を進めていきます。

2 道路整備計画についてですが、本市の幹線道路の整備計画を示した「道路整備プログラム」では、渋滞や交通事故などの定量的な評価のほか、高密度のバス路線や拠点都市を支援する道路、また、交通結節点整備を評価するなど、公共交通支援も重要な視点として整備路線を選定しています。

更に、「新総合計画川崎再生フロンティアプラン第2期実行計画」や「新行財政改革プラン」と連携することにより、実効性を高め、社会経済環境の変化に柔軟に対応できる計画としています。

3 近隣の他公共交通機関との連携については、公共交通の利用促進という観点からその必要性は十分理解いたしますので、神奈川県バス協会など関係機関との協議を検討いたします。

また、本市では、民営バス事業者に対して、バス共通ICカードシステム及びバスロケーションシステムの導入並びにノンステップバス購入の費用の一部補助を行っています。こうした取り組みにより公共交通の利便性向上、公共交通機関への利用転換を促進し、マイカー使用が抑制され、温室効果ガスの排出量削減に寄与するものと考えております。

4 経営情報の開示と最新情報の収支見通しへの反映について、燃料費の削減可能性等についてはエコドライブ・アイドリングストップ等により、一定の燃費向上が検証できることから鋭意取り組んでいます。

また、ハイブリッドバスを始めとした低公害バスについて、積極的に導入していきます。

一方で、燃料費の上昇による乗用車等から公共交通への乗換えについては、将来の収支見通しを策定する中で、その効果を期待することは可能ですが、持続可能で安定的な経営を目指すうえで、環境変化に耐えられるより厳しい収支見通しが必要なことから、収支上は見込むべきではないと考えています。

5 市の政策との連携によるマイカーからバスへの乗換えを促す広報活動や公共交通の利用に向けた経営戦略としての環境広告・イメージ広告については、市民やお客様に市バスの取組への御理解、御協力をいただくために、積極的に検討を進めていきます。

市バス事業は、これからも、市民やお客様の大切な交通手段として持続可能な経営を目指すとともに、公営交通として「人と環境にやさしい市バス」を経営理念に、環境対策やバリアフリーにも積極的に対応していきますので、今後ともよろしく願いいたします。

平成20年8月20日

持続可能な地域交通を考える会 御中

川崎市長 阿部 孝夫

受付連番080525（手紙番号312）

担当 交通局企画管理部経営企画課

電話 044-200-3217

担当 建設局道路計画部道路計画課

電話 044-200-2758

担当 まちづくり局計画部交通計画課

電話 044-200-2034